



6月17・18日 大学祭(九十九祭)の様子。

公認心理師の国家資格化にあたって

心理科学部 臨床心理学科長 富家 直明



公認心理師という国家資格が誕生します。公認心理師とは、公認心理師登録簿への登録を受け、公認心理師の名称を用いて、保健医療、福祉、教育等の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、心理検査、カウンセリングや心理療法、心の健康に関する心理教育や情報の提供等を業として行うプロフェッショナルのことです。これまではカウンセラーになりたいと思っても、臨床心理士という民間資格で活動するしかなく、その職域は限られていました。しかし、いよいよ国家資格が誕生し、心の支援を必要とする社会の要請に応じて、思う存分に活躍できるチャンスが巡ってきたのです。平成30年までに第1回国家試験が実施される予定です。

そして、本学の臨床心理学科はこの公認心理師の養成に最適な教育カリキュラムをすでに備えつつあります。今年が学科の誕生からちょうど15年が経過しました。15年の歴史は長いようで短く、短いようで長い時間でした。カウンセラーや心理テスターの潜在的な需要は学科開設時からすでにあったものの、法的な整備や保険点数の見直しなどが伴わず、本格的な普及には到底及びませんでした。しかし、この間、治療科学としての臨床心理学の進歩は著しく、精神医療はもとより、生活習慣病、がん、遺伝医療、終末期ケア、臓器移植、難病等の治療におけるエビデンスは日増しに増大し、臨床心理学の役割は医療人養成を使命とする本学にとってなくてはならないものです。医療現場のみならず学校教育の現場においても、教員の負担軽減、チーム学校という文部科学省の

政策上の観点から、スクールカウンセラーの全校配置が目標に掲げられるようになりました。次なる課題は、我々大学が確かな人材供給をお約束できるかどうかです。学際的融合によって急速に進歩し続ける臨床心理学の知見や技術を実践に身につけた質の高い人材を社会に輩出するためには、私たちがいかにしっかりした教育体制を組み立てられるかにかかっています。数年前、試行錯誤の後に、文部科学省GPである大学院教育改革プログラムに、「科学者実践家モデルに基づく臨床心理学教育」という題目で私たちの教育課程が採択されたことは、大いに勇気づけられたできごとでありました。また、多職種連携教育を実現するために、平成27年度より始まった当別キャンパスへの段階的移転もようやく第3学年までが揃いつつあるなど、順調な成長を続けております。心の問題にかかわる職能人を育成するノウハウや環境は、揃いつつあるといえるでしょう。

とはいえ、公認心理師という国家資格はまだできたばかりで、本格的な職域の確保はこれからです。将来は、心の支援を必要とするあらゆる社会において歓迎されることになるでしょうが、当面の間は「開拓精神」が必要だと思えます。病院、福祉、教育、司法、産業のあらゆる方向に、卒業生の進路は開かれています。しかし、その道は舗装されていません。新雪の道を踏みしめるようにこの黎明期を進んでいきたいと思えます。本学の皆様と大勢の卒業生、保護者の皆様による温かいご支援を賜りたいと思えます。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

CONTENTS

公認心理師の国家資格化にあたって	1
教員役職者・新任教員・昇任教員等紹介	2
2017年度入試結果報告	3
薬学生セミナー「学内就職相談会」を開催 マヒドン大学(タイ)短期研修を実施	
国家試験結果報告	4
リハビリテーション科学部 近藤里美教授が「石崎賞」を受賞 リハビリテーション科学部 大内みづか助教が「日本理学療法士学会 学術誌掲載論文優秀賞」を受賞	
就職状況結果報告	5
北海道教育委員会と相互連携協定を締結	
2018年度 入試概要	6
私の学生時代	8
OB・OG訪問「理学療法学科作業療法学科」	9
学校法人東日本学園	10
○2016年度決算 ○2017年度予算	
新入生アンケート結果報告	12
ご支援をお考えの皆様へ EDITOR'S NOTE	

教員役職者・新任教員・昇任教員等紹介

新規選出教員役職者

大学病院長	
北市 伸義	
歯学部	歯学部教務部長 遠藤 一彦
	歯学部学生部長 入江 一元
	歯学部教務部副部長 長澤 敏行
	歯学部教務部副部長 會田 英紀
	歯学部学生部副部長 荒川 俊哉

歯学部	歯学部学生部副部長 加藤 幸紀
看護福祉学部	看護福祉学部教務部長 花淵 馨也
	看護福祉学部学生部長 大友 芳恵
	看護福祉学部教務部副部長 白石 淳
心理科学部	言語聴覚療法学科長 下村 敦司
	心理科学部教務部長 中川 質嗣
	心理科学部学生部長 漆原 宏次
	心理科学部教務部副部長 森 伸幸
	心理科学部学生部副部長 木下 憲治

リハビリテーション科学部	作業療法学科長 岩瀬 義昭
	言語聴覚療法学科長 下村 敦司
	リハビリテーション科学部教務部長 吉田 晋
	リハビリテーション科学部学生部長 木下 憲治
	リハビリテーション科学部教務部副部長 本家 寿洋
	リハビリテーション科学部教務部副部長 太田 亨
	リハビリテーション科学部学生部副部長 近藤 里美
	リハビリテーション科学部学生部副部長 高橋 尚明
予防医療科学センター	大学病院副院長 森谷 満

新規特任教員

薬学部	教授 小田 和明
リハビリテーション科学部・心理科学部	教授 亀井 尚

国際交流推進センター	特任助教 ハサン エムディリアマト
------------	-------------------

予防医療科学センター	教授 福田 諭
------------	---------

新任教員



がん予防研究所教授
藏満 保宏 (くらみつ やすひろ)

山口大学医学部卒業。北海道大学大学院医学研究科病理学専攻修了。国立十勝療養所精神科勤務。北海道大学医学研究科助手。市立札幌病院診療科副長。札幌医科大学副学部長。北海道大学大学院医学研究科准教授などを経て、本学就任。医学博士。



薬学部教授
(薬理学講座)

泉 剛 (いずみ たけし)

北海道大学医学部卒業。同大学院医学研究科内科学系精神医学専攻博士課程修了。国立十勝療養所精神科勤務。北海道大学医学研究科助手。市立札幌病院診療科副長。札幌医科大学副学部長。北海道大学大学院医学研究科准教授などを経て、本学就任。医学博士。



歯学部准教授
(口腔構造・機能発育学系(組織学分野))

細矢 宏宏 (ほそや あきひろ)

新潟大学歯学部卒業。同大学院歯学研究科歯学臨床系専攻博士課程修了。同大学歯学部附属病院医員。松本歯科大学歯学部口腔解剖学第二講座助教。韓国 Yonsei University College of Dentistry海外特別研究員などを経て、本学就任。歯学博士。



講師
高橋 祐司 (たかはし ゆうじ)

北海道医学技術専門学校臨床検査技師科卒業。北海道大学大学院保健科学修士課程修了。同博士後期課程単位取得満期退学。札幌市病院内市立札幌病院検査部生化学検査係、同輸血検査担当係を経て、本学就任。保健科学博士。



薬学部講師
(生命物理科学講座)

佐藤 浩輔 (さとう こうすけ)

北海道大学薬学部総合薬学専攻卒業。同大学院薬学研究科修士課程修了。米田ジョーンズ・ホプキンス大学化学科博士研究員。北海道大学創薬科学センター有機合成医薬部門助教などを経て、本学就任。理学博士。



歯学部講師
(生体機能・病態学系(内科学分野))

大村 一将 (おおむら かずまさ)

北海道大学医学部卒業。同大学院医学研究科医学専攻博士課程修了。東京出版株式会社勤務。苫小牧市立病院内科医。JA北海道厚生連帯広厚生病院第3内科内科医。北海道内科リウマチ科病院内科医などを経て、本学就任。



予防医療科学センター講師
(医学部門)

佐藤 出 (さとう いずる)

弘前大学医学部卒業。北海道大学医学部眼科講座入局研修医。同医部眼科講座医員。帯広協栄病院眼科長。滝川市立病院眼科長。NTT東日本札幌病院眼科主任医員。医療法人芳生会分限・カルメドアイ院長などを経て、本学就任。



予防医療科学センター講師
(医学部門)

野口 圭士 (のぐち けいじ)

慶應義塾大学歯学部卒業。徳島大学医学部医学科卒業。北海道大学大学院医学研究科医学専攻博士課程修了。道立紋別病院研修医。北見赤十字病院循環器内科医。国立病院機構函館病院循環器内科医。北海道大学病院循環器内科医を兼ねて、本学就任。医学博士。



認定看護師研修センター専任教員
(感染管理分野)

吉崎 清美 (よしざき きよみ)

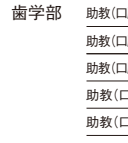
伊達赤十字看護専門学校卒業。本学認定看護師研修センター感染管理分野修了。伊達赤十字病院外科内科スタッフ。苫小牧市立病院小児科NICUスタッフ。同集中治療室スタッフ。同看護部主査。同感染症対策室兼室長。同感染制御室主査などを経て、本学就任。



認定看護師研修センター専任教員
(認知症鑑別分野)

森 真紀 (もり まき)

天徳女子短期大学衛生看護学専攻卒業。日本看護協会看護研究科認定看護師教育専門課程認知症高齢者看護学修了。国家公務員共済連合会札幌病院看護部。医療法人愛全安病院看護部。同認知症看護認定看護師兼任。同看護主任などを経て、本学就任。



歯学部

助教(口腔機能修復・再建学系(咬合再建補綴学)) 菅 悠希

助教(口腔構造・機能発育学系(歯科矯正学)) 河川 馨太郎

助教(口腔構造・機能発育学系(小児歯科学)) 村井 雄司

助教(口腔生物学系(薬理学)) 村田 佳織

助教(口腔生物学系(生化学)) 唐 佳

任期制助手(口腔機能修復・再建学系(2)歯科治療学) 黒田 周作

任期制助手(口腔機能修復・再建学系(咬合再建補綴学)) 朝廣 賢哉

任期制助手(口腔機能修復・再建学系(ク라운ブリッジ・インプラント補綴学)) 山口 撰崇

任期制助手(口腔機能修復・再建学系(高度先進補綴学)) 兼子 敬史

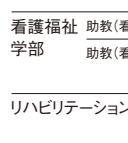
任期制助手(口腔機能修復・再建学系(デジタル歯科学)) 新中須 剛

任期制助手(生体機能・病態学系(高齢者・有病者歯科学)) 今井 哲郎

任期制助手(口腔構造・機能発育学系(歯科矯正学)) 櫻尾 治奈

任期制助手(口腔構造・機能発育学系(小児歯科学)) 高橋 亜友美

岡田 悠之介

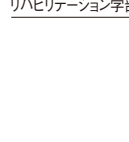


看護福祉学部

助教(看護学実践基礎看護学) 横川 亜希子

助教(看護学成人看護学) 前川 真湖


高井 津津子



リハビリテーション科学部

助教(理学療法学科) 佐藤 一成

鈴木 伸弥



リハビリテーション学部・心理科学部

助教(言語聴覚療法学科) 高倉 祐樹

昇任教員



薬学部教授
(薬学教育推進講座)

八木 直美 (やぎ なおみ)

北海道大学薬学部卒業。琴似国立診療所職員。本学薬学部薬理学専攻修了。同薬学部製剤学講座助手。同薬学部製剤学講座准教授。同准教授。同教育推進講座薬事法分野准教授などを経て、教授就任。薬学博士。



薬学部講師
(薬理学講座)

久保 儀忠 (くぼ よしただ)

東北薬科大学薬学部卒業。本学大学院薬学研究科医療薬学専攻修士課程修了。市立旭川病院薬剤科。同主任。本学薬学部製剤学講座助手。同助教を経て、講師就任。薬学博士。



歯学部教授
(口腔生物学系(生化学))

荒川 俊哉 (あらかわ としや)

琉球大学医学部保健学専攻。徳島大学大学院薬学専攻博士前期課程修了。同博士後期課程修了。Postdoctoral Fellow, Michigan State University, USA。本学歯学部口腔生化学講座助手。同歯学部口腔生化学系生化学分野准教授などを経て、教授就任。薬学博士。



歯学部教授
(生体機能・病態学系(組織再建口腔科学))

奥村 一彦 (おくむら かずひこ)

城西歯科大学歯学部卒業。同大学院歯学研究科博士課程修了。本学歯学部口腔科学第一講座助手。同歯学部生体機能・病態学系組織再建口腔科学分野講師。同准教授などを経て、教授就任。歯学博士。



看護福祉学部教授
(看護学系(地域保健看護学・地域看護学))

竹生 礼子 (たけう れいこ)

千歳大学看護学部看護学専攻卒業。本学大学院看護福祉学研究科看護学専攻修士課程修了。東京医科大学大学院保健衛生学専攻修士課程修了。本学看護福祉学部看護学専攻博士後期課程修了。本学看護福祉学部看護学系地域保健看護学講座(地域看護学)講師。同准教授などを経て、教授就任。看護学博士。



看護福祉学部准教授
(看護学系(母子看護学・小児看護学))

木浪 智佳子 (きなみ ちかこ)

本学看護福祉学部看護学専攻卒業。同大学院看護福祉学研究科看護学専攻修士課程修了。青森県立中央病院。市立函館病院。天使病院小児科外来。本学看護福祉学部看護学系母子看護学講座(小児看護学)助手。同講師などを経て、准教授就任。看護学修士。



心理科学部准教授
(臨床心理学系(障害心理学))

金澤 潤一郎 (かなざわ じゅんいちろう)

本学心理科学部臨床心理学専攻。同大学院心理科学研究科臨床心理学専攻修士課程修了。同博士課程修了。札幌医科大学保健学専攻(助教)を経て、講師就任。日本学術振興会特別研究員(DC2)。本学大学院心理科学研究科リサーチ・アシスタントなどを経て、准教授就任。臨床心理学博士。



リハビリテーション科学部講師
(言語聴覚療法学科・発声発語障害学)

柳田 早織 (やなぎ だきおり)

本学心理科学部言語聴覚療法学科卒業。同大学院心理科学研究科言語聴覚学専攻修士課程修了。本学心理科学部言語聴覚療法学科助教。同リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科助教などを経て、講師就任。言語聴覚学修士。



リハビリテーション科学部講師
(言語聴覚療法学科・聴覚障害学)

前田 秀彦 (まへだ ひでひこ)

北海道大学医療技術短期大学衛生技術学専攻卒業。本学大学院理学研究科言語聴覚学専攻修士課程修了。本学大学院理学研究科言語聴覚学専攻修士課程修了。本学言語聴覚療法学科助教。同リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科助教などを経て、講師就任。言語聴覚学修士。



大学教育開発センター講師
リハビリテーション科学部講師(理学療法学科・体育学)

井上 恒志郎 (いのうえ こうしろう)

山口大学教育科学部健康科学教育課程卒業。筑波大学大学院人間総合科学研究科体育学専攻博士前期課程修了。同博士後期課程修了。日本学術振興会学術国際協力事業二国共同研究センター研究員。本学大学院開発センターリハビリテーション科学部理学療法学科助教などを経て、講師就任。体育科学博士。




歯学部講師
(総合教育学系(臨床教育管理運営))

村田 幸枝 (むらた ゆきえ)

本学歯学部卒業。北海道大学大学院歯学研究科口腔医学専攻博士課程入学。同単位取得退学。北海道大学歯学部附属病院研修医。北海道大学病院歯科診療センター医員。本学歯学部口腔構造・機能発育学系小児歯科学分野助教を経て、講師就任。歯学博士。

配置替 昇任教員



歯学部講師
(総合教育学系(臨床教育管理運営))

菅 悠希 (すが ゆうき)

本学歯学部卒業。北海道大学大学院歯学研究科口腔医学専攻博士課程入学。同単位取得退学。北海道大学歯学部附属病院研修医。北海道大学病院歯科診療センター医員。本学歯学部口腔構造・機能発育学系小児歯科学分野助教を経て、講師就任。歯学博士。

2017年度 入試 結果報告

本年度の志願者数は
5,157名

本年度入試の志願者総数は、前年比6.5%減少の5,157名となりました。志願者の最も多かった学科は看護学科1,163名で、次に薬学部824名という結果でした。

編入学試験の
志願総数は29名

本学全体では29名が編入学を志願しました。うち13名が入学し、実質競争倍率は1.9倍でした。

専門学校志願者の
7割以上がAO方式入試を利用

毎年志願者の多くがAO方式入試を利用しています。志願者は27名で、全体の約73%を占めました。

■2017年度入試結果 北海道医療大学

歯学部附属歯科
衛生士専門学校

	薬学部		歯学部		看護福祉学部 看護学科 臨床福祉学科		心理科学部 臨床心理学科		リハビリテーション科学部 理学療法学科 作業療法学科 言語聴覚療法学科			歯科衛生科
	AO方式入試	志願者数 38名	11名	43名	8名	12名	39名	21名	22名	27名		
	受験者数 38名	11名	43名	8名	12名	39名	21名	22名	27名			
	合格者数 22名	11名	11名	8名	10名	12名	9名	19名	27名			
	入学者数 22名	10名	11名	8名	10名	12名	9名	19名	25名			
	実質倍率 1.7倍	1.0倍	3.9倍	1.0倍	1.2倍	3.3倍	2.3倍	1.2倍	1.0倍			
一般推薦入試	志願者数 19名	0名	49名	0名	5名	31名	14名	6名	1名			
	受験者数 19名	0名	49名	0名	5名	31名	14名	6名	1名			
	合格者数 17名	0名	19名	0名	5名	16名	8名	5名	1名			
	入学者数 17名	0名	19名	0名	5名	16名	8名	5名	1名			
	実質倍率 1.1倍	1.0倍	2.6倍	1.0倍	1.0倍	1.9倍	1.8倍	1.2倍	1.0倍			
指定校 特別推薦入試	志願者数 53名	6名	30名	13名	13名	15名	8名	12名	—			
	受験者数 53名	6名	30名	13名	13名	15名	8名	12名	—			
	合格者数 53名	6名	30名	13名	13名	15名	8名	12名	—			
	入学者数 53名	6名	30名	11名	13名	14名	8名	12名	—			
	実質倍率 1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	—			
一般前期入試 (大学)	志願者数 1日目 208名 2日目 163名	1日目 59名 2日目 43名	1日目 383名 2日目 304名	1日目 108名 2日目 85名	1日目 156名 2日目 114名	1日目 223名 2日目 161名	1日目 215名 2日目 160名	1日目 148名 2日目 114名	4名			
一般前期(A・B日程) (専門学校)	志願者数 1日目 203名 2日目 151名	1日目 55名 2日目 40名	1日目 372名 2日目 291名	1日目 106名 2日目 82名	1日目 153名 2日目 111名	1日目 220名 2日目 158名	1日目 211名 2日目 155名	1日目 147名 2日目 112名	4名			
	合格者数 134名	65名	114名	111名	149名	70名	96名	112名	4名			
	入学者数 50名	9名	48名	16名	15名	29名	23名	11名	2名			
	実質倍率 2.6倍	1.5倍	5.8倍	1.7倍	1.8倍	5.4倍	3.8倍	2.3倍	1.0倍			
一般後期入試	志願者数 45名	67名	56名	22名	22名	38名	30名	24名	5名			
	受験者数 39名	59名	54名	20名	21名	38名	29名	23名	5名			
	合格者数 21名	49名	13名	20名	15名	8名	2名	16名	5名			
	入学者数 8名	9名	10名	5名	5名	5名	0名	4名	2名			
	実質倍率 1.9倍	1.2倍	4.2倍	1.0倍	1.4倍	4.8倍	14.5倍	1.4倍	1.0倍			
センター前期A入試	志願者数 182名	99名	187名	66名	123名	168名	153名	99名	—			
	受験者数 182名	99名	187名	66名	123名	168名	153名	99名	—			
	合格者数 70名	86名	46名	60名	91名	37名	58名	64名	—			
	入学者数 11名	17名	5名	5名	10名	8名	7名	4名	—			
	実質倍率 2.6倍	1.2倍	4.1倍	1.1倍	1.4倍	4.5倍	2.6倍	1.5倍	—			
センター前期B入試	志願者数 80名	42名	91名	46名	55名	65名	69名	53名	—			
	受験者数 80名	42名	91名	46名	55名	65名	69名	53名	—			
	合格者数 30名	41名	25名	46名	52名	22名	32名	42名	—			
	入学者数 9名	5名	1名	7名	9名	9名	4名	6名	—			
	実質倍率 2.7倍	1.0倍	3.6倍	1.0倍	1.1倍	3.0倍	2.2倍	1.3倍	—			
センター後期入試	志願者数 36名	26名	20名	12名	18名	19名	17名	15名	—			
	受験者数 36名	26名	20名	12名	18名	19名	17名	15名	—			
	合格者数 24名	26名	10名	12名	18名	8名	2名	9名	—			
	入学者数 6名	1名	4名	1名	2名	2名	0名	1名	—			
	実質倍率 1.5倍	1.0倍	2.0倍	1.0倍	1.0倍	2.4倍	8.5倍	1.7倍	—			
TOTAL	志願者数 824名	353名	1,163名	360名	518名	759名	687名	493名	37名			
	受験者数 801名	338名	1,137名	353名	511名	753名	677名	489名	37名			
	合格者数 371名	284名	268名	270名	353名	188名	215名	279名	37名			
	入学者数 176名	57名	128名	53名	69名	95名	59名	62名	30名			
	実質倍率 2.2倍	1.2倍	4.2倍	1.3倍	1.4倍	4.0倍	3.1倍	1.8倍	1.0倍			

■ 薬学生セミナー「学内就職相談会」を開催

4月21日(金)薬学部学生を対象とした薬学生セミナー「学内就職相談会」を開催しました。

当日は、様々な団体から薬剤部門責任者・人事担当者など、182団体約300名の方が来学し、学生に対して就職や業界に関する説明・相談等を行いました。はじめに和田薬学部長ならびに吉村薬学部就職委員長からの挨拶ののち、相談会が開始しました。参加した学生は各ブースを積極的に訪れ、真剣な表情で説明を受けるなど、最後まで大きな賑わいをみせていました。

本学では各学部に就職委員会を設置し、就職ガイダンスや専門講師を招いての各種セミナーを数多く実施するなど、学生のより確実な就職に向けて、教職員が一丸となってきめ細やかな指導をしています。



■ マヒドン大学(タイ)短期研修を実施

マヒドン大学歯学部より、6年生のJutasinee Pompolsarunさんが来日し、3月21日(火)～31日(金)の約2週間、本学歯学部、歯科クリニック及び大学病院で研修を行いました。

放課後には合気道部やお茶会への参加、週末は本学の学生と道内旅行を楽しむなど、充実した日々を過ごしました。最終日の報告会では、今回の研修で学んだこと、滞在中の出来事等を発表し、齋藤歯学部長より修了証明書と記念品が手渡されました。その後の懇親会では、3月にマヒドン大学で短期研修を行った本学歯学部学生も参加し、互いの研修中の思い出話を花を咲かせ、親睦を深めました。



学長室表敬訪問:左からJutasineeさん、浅香学長、安彦教授、Nattakarnさん(歯学研究科大学院生)

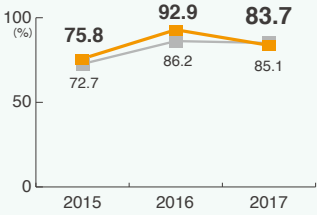
北海道医療大学

(第102回 薬剤師国家試験)

全卒業生5,582名の96.6%が薬剤師免許を取得。

2017年2月、第102回薬剤師国家試験が行われました。本学からは新卒者141名が受験、118名が合格し、合格率は83.7%となりました。なお、本学薬学部卒業生総数5,582名の96.6%にあたる5,393名が薬剤師免許を取得しています。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

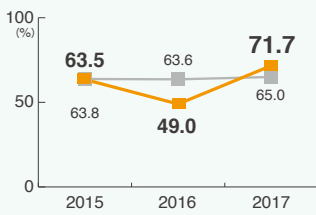


(第110回 歯科医師国家試験)

全卒業生3,168名の97.9%が歯科医師国家資格を取得。

2017年2月、第110回歯科医師国家試験が行われました。本学新卒合格率は71.7%(受験者46名・合格者33名)となりました。なお、本学歯学部卒業生総数3,168名のうち、97.9%にあたる3,103名が歯科医師免許を取得しています。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

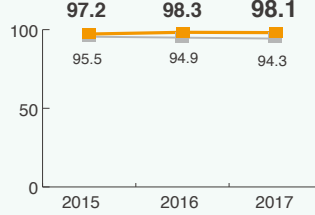


(第106回 看護師国家試験)

新卒合格率は98.1%。101名が看護師免許を取得

2017年2月、第106回看護師国家試験が行われました。本学の看護師の新卒合格率は98.1%(受験者103名・合格者101名)となりました。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

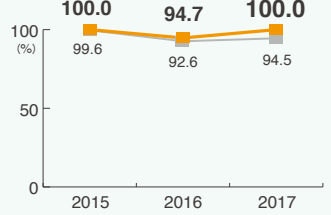


(第103回 保健師国家試験)

新卒合格率は100%。14名が看護師と保健師の同時取得を実現

2017年2月、第103回保健師国家試験が行われました。本学の保健師の新卒合格率は100.0%(受験者15名・合格者15名)となりました。14名が看護師と保健師の同時取得を実現しました(編入生1名は看護師取得済み)。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

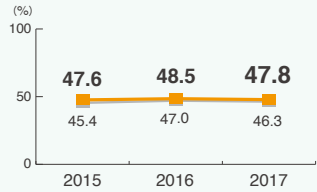


(第29回 社会福祉士国家試験)

社会福祉士国家試験合格率は全国平均を上回る好成績。

2017年1月、社会福祉士国家試験が行われました。厚生労働省の発表による社会福祉士国家試験の本学新卒合格率は47.8%(受験者92名、合格者44名)と、全国平均を上回る好成績を収めました。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

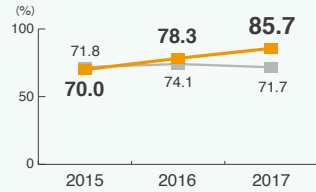


(第19回 精神保健福祉士国家試験)

合格者の多くが社会福祉士とのダブルライセンスを取得。

2017年1月、精神保健福祉士国家試験が行われました。厚生労働省の発表による精神保健福祉士国家試験の本学新卒合格率は85.7%(受験者28名、合格者24名)と、全国平均を上回る好成績を収めました。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

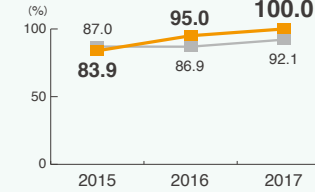


(第19回 言語聴覚士国家試験)

新卒合格率100%達成! 96.8%が言語聴覚士免許を取得。

2017年2月、第19回言語聴覚士国家試験が行われました。本学からは新卒者49名が受験、全員が合格し、合格率は100.0%となりました。なお、本学科の全卒業生660名のうち、96.8%にあたる639名が言語聴覚士免許を取得しています。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



(第52回 理学療法士国家試験)

本学初となる理学療法士国家試験は、新卒者73名全員が合格し、合格率100%を達成!

2017年2月、第52回理学療法士国家試験が行われました。本学からは第1期生となる、新卒者73名が受験。見事全員が合格し、合格率は100%に。全国平均の96.3%を上回る好成績となりました。

■理学療法士国家資格

100.0%
[全国平均96.3%]

(第52回 作業療法士国家試験)

本学初となる作業療法士国家試験は、新卒者40名全員が合格し、合格率100%を達成!

2017年2月、第52回作業療法士国家試験が行われました。本学からは第1期生となる、新卒者40名が受験。見事全員が合格し、合格率は100%に。全国平均の90.5%を上回る好成績となりました。

■作業療法士国家資格

100.0%
[全国平均90.5%]

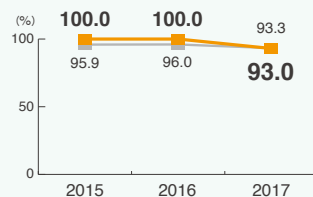
歯学部附属歯科衛生士専門学校

(第26回 歯科衛生士国家試験)

歯科衛生士国家試験は開校以来の資格取得率99.7%!

本校卒業生は開校以来、今年卒業の第31期生まで、99.7%と高い国家資格取得率を堅持しています。また、本校は文部科学省の定める一定の基準を満たした専門学校なので、卒業すると「専門士」の称号が与えられます。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



リハビリテーション科学部 近藤里美教授が「石崎賞」を受賞

5月26日(金)~27日(土)に沖縄コンベンションセンターで開催された第18回日本認知症ケア学会において、リハビリテーション科学部作業療法学科の近藤里美教授が「石崎賞」を受賞しました。本賞は日本認知症ケア学会大会において優秀な演題発表をした研究者に贈られる賞で、獨創性、有用性、発展性を総合的に評価します。近藤教授は、介護従事者との協働作業を通じた、重度認知症高齢者ケアとしての音楽療法をアクションリサーチを通じて考察したことが評価されました。これを通し、高齢者の認知症における音楽療法の貢献とさらなる発展が期待されます。



リハビリテーション科学部 大内みふか助教授が「日本理学療法士学会学術誌掲載論文優秀賞」を受賞

5月12日(金)~14日(日)に千葉県千葉市で開催された第52回日本理学療法学会学術大会にて、リハビリテーション科学部理学療法学科の大内みふか助教授が「日本理学療法士学会学術誌掲載論文優秀賞」を受賞しました。本賞は平成28年度「理学療法学」掲載の論文のうち、理学療法への学術的な貢献が高いと認められた研究者に贈られます。今回は骨盤臓器脱のある女性に対し、骨盤底筋体操が症状や生活の質の改善に寄与したという研究成果が高く評価されました。大内助教授の研究内容である骨盤臓器脱に対する理学療法は、本邦で未だ認知度が低く、保険適応ではありません。今後エビデンス構築を通して理学療法の対象となり、理学療法士がこの分野へより関わっていただけるきっかけとなるよう期待されます。



就職状況 結果報告

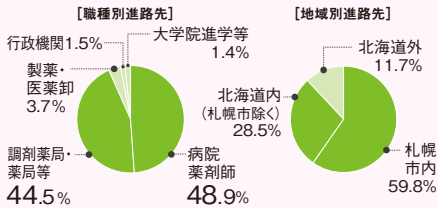
本学卒業生への評価の高さが、求人の質・量に直結。
より深い知識修得をめざし大学院へ進学する人も。

薬学部

2017年も4,300人を超える求人。
6年制移行後も高い就職率を維持。

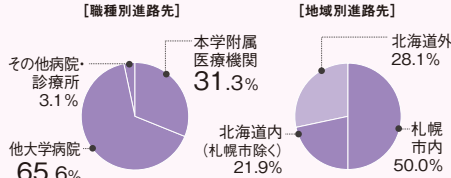
■2017年3月卒業生の就職先

求人数	薬剤師……………4,326人
	MR・研究・開発職…266人



歯学部

卒業後は
臨床能力の向上をめざして
臨床研修医の道へ。

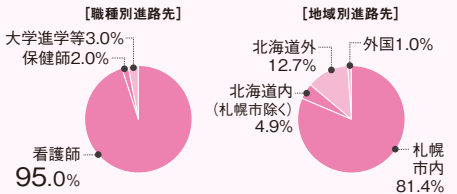


看護福祉学部／看護学科

卒業生は札幌と首都圏を中心に
全国の総合病院で活躍。

■2017年3月卒業生の就職先

求人数	看護師……………12,494人
	保健師……………317人

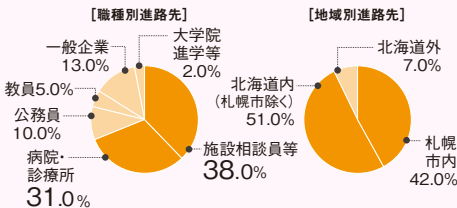


看護福祉学部／臨床福祉学科

施設や病院のほか、公務員、教員、一般企業と
さまざまな分野で活躍。

■2017年3月卒業生の就職先

求人数	医療機関相談員……………141人
	福祉施設相談員・
	介護職員等……………2,252人
	一般事務・その他……………4,445人

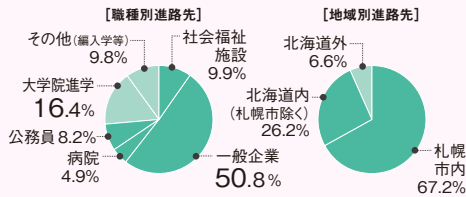


心理科学部／臨床心理学科

業界や業種を問わず、
専門性を生かした多彩な進路です。

■2017年3月卒業生の就職先

求人数	心理職……………89人
	一般事務・その他……………4,445人

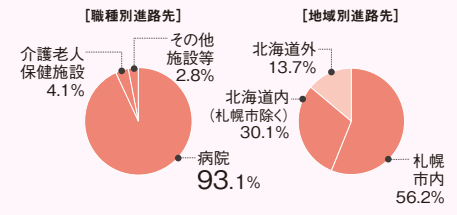


リハビリテーション科学部／理学療法学科

第1期生は9割以上が病院へ就職。
今後の活躍に期待。

■2017年3月卒業生の就職先

求人数	理学療法士……………1,171人
-----	------------------

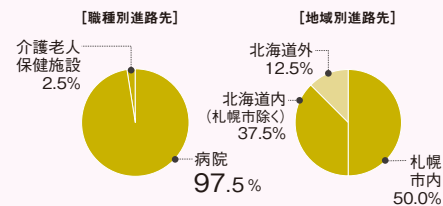


リハビリテーション科学部／作業療法学科

第1期生全員が、作業療法士として
病院と老人保健施設へ。

■2017年3月卒業生の就職先

求人数	作業療法士……………1,809人
-----	------------------

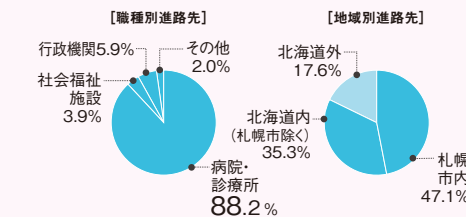


リハビリテーション科学部／言語聴覚療法学科

2017年卒業生の8割以上が
病院の言語聴覚士として活躍。

■2017年3月卒業生の就職先

求人数	言語聴覚士……………1,079人
-----	------------------

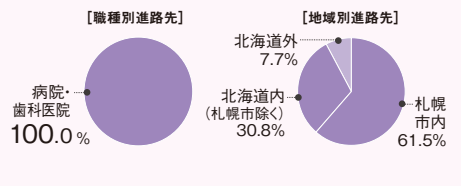


歯学部附属歯科衛生士専門学校

31期連続、
就職希望者全員が就職

■2017年3月卒業生の就職先
(歯科衛生士)

求人数	歯科衛生士……………635人
-----	----------------



北海道教育委員会と相互連携協定を締結

3月24日(金)北海道庁別館において、本学は北海道教育委員会と相互連携に関する協定を締結しました。

今回の協定は、学校が福祉や心理の専門家と連携し、児童生徒の抱える諸課題を解決するために、現場で必要とされる人材の育成、現職のスクールソーシャルワーカー(SSW)やスクールカウンセラー(SC)の研修システムの構築、また多職種による協働や学校・地域のニーズ、特性を踏まえたSSW・SCの適正配置の在り方と計画的育成に関する共同研究を推進していくものです。本学看護福祉学部臨床福祉学科における平成29年度スクールソーシャルワーク実習を北海道教育委員会等で実施するほか、臨床福祉学科・臨床心理学科が北海道教育委員会と協働して、SSW・SCの資質・能力の向上を支える研修コンテンツの開発、ICT活用事業の拡大等を行っていきます。

将来的な人材の育成と、現職のSSW・SCの支援体制等を協働で行うことによって、北海道の教育現場が「地域の偏り」や「さまざまな原因によって複雑化した諸問題」を解消していけることを目的としています。



左から北海道教育委員会 柴田達夫教育長、北村善春学校教育局長、川端雄一学校教育局参事、本学 浅香正博学長、平典子看護福祉学部長、中野倫心理科学部長

2018年度 入試概要

本学独自の「夢つなぎ入試」で経済的支援

経済的理由により大学進学が困難な状況にある受験生を支援するため、初年度入学金の全額と授業料の半額を免除する「夢つなぎ入試」を、一般後期・センター後期入試において実施します。

「薬学部特待奨学生」

「歯学部特待奨学生」

「福祉・介護人材育成奨学生」は学納金が大幅に減免

薬学部と歯学部では、将来活躍が期待される人間性豊かな薬剤師を育成、もしくは歯科医学・歯科医療の分野をリードするという高い志を持った方を支援するため、卒業までの学納金を国立大学と同水準とする制度を実施します。「薬学部特待奨学生」は一般前期・センター前期A入試において、「歯学部特待奨学生」はセンター前期A・一般後期B入試において募集します。

また、臨床福祉学科では、人材不足が社会問題となっている福祉・介護専門職の人材育成を図るため、卒業までの学納金が90万円となる「福祉・介護人材育成奨学生」制度を実施します。一般前期・センター前期A・センター前期B入試において募集します。

一般前期入試は「試験日自由選択制」を導入

一般前期入試は1月30日と1月31日の2日間実施しており、両日とも受験できるのでチャンスが2回あります。検定料は両日受験でも1日のみの受験でも一律3万円。複数学科の併願も可能で、すべての学科を受験しても追加の検定料は一切かかりません。(1日の受験で併願できる学科には制限があります。詳しくは学生募集要項をご覧ください。)

一般前期入試は全国12会場で開催

一般前期入試は札幌、旭川、帯広、北見、函館、青森、秋田、仙台、東京、名古屋、大阪、福岡の全国12会場で開催します。

センター利用入試はチャンスが3回

前期A、前期B、後期の3回実施しています。大学独自の個別試験は行わず、本学が指定する科目の大学入試センター試験の得点のみで合否判定を行います。

また、同一入試形態内の併願が可能で、追加の検定料はかかりません。さらに前期AとBの両方の入試形態に出願することもできます。

一般入試とセンター入試の併願が可能

一般前期入試とセンター前期A・B入試の併願や、一般後期入試とセンター後期入試の併願ができます。

合格のチャンスは合計7回

全学部全学科でAO方式入試、推薦入試(一般・指定校)、一般前期入試、一般後期入試、センター前期A・センター前期B・センター後期入試の合計7回の入試を実施します(歯学部は一般後期B入試を加えた8回)。

歯学部・臨床福祉学科ではAO方式入試Ⅱ期・Ⅲ期を実施

AO方式入試Ⅱ期の出願受付を2017年10月2日(月)から12月22日(金)まで、Ⅲ期の出願受付を2018年1月5日(金)から歯学部は2月16日(金)、臨床福祉学科は3月23日(金)まで行っています。

インターネット出願を実施

センター前期B入試、一般後期入試、センター後期入試で実施しています。詳細は、学生募集要項でご確認ください。

2018年度 北海道医療大学入試概要

	募集定員	薬学部	歯学部	看護福祉学部		心理科学部	リハビリテーション科学部		
		薬学科 【募集定員 160名】	歯学科 【募集定員 80名】	看護学科 【募集定員 100名】	臨床福祉学科 【募集定員 80名】	臨床心理学科 【募集定員 75名】	理学療法学科 【募集定員 80名】	作業療法学科 【募集定員 40名】	言語聴覚療法学科 【募集定員 60名】
AO方式入試 ※1	16名	20名	6名	15名	10名	10名	5名	12名	
試験日	2次:2017年10月8日(日)								
合格発表日	1次:2017年9月29日(金) 2次:2017年10月14日(土)								
試験会場(受験地)	本学(当別キャンパス)								
推薦入試	一般17名 ※2 指定校特別29名	一般8名 ※2 指定校特別8名	一般16名 ※2 指定校特別16名	一般10名 ※2 指定校特別14名	一般10名 ※2 指定校特別10名	一般10名 ※2 指定校特別10名	一般5名 ※2 指定校特別5名	一般5名 ※2 指定校特別10名	
試験日	2017年11月12日(日)								
合格発表日	2017年11月17日(金)								
試験会場(受験地)	本学(当別キャンパス)・帯広・北見・函館・仙台・東京・大阪・那覇 ※ただし、指定校特別推薦は一部会場のみ。								
一般前期入試	65名	25名	40名	23名	24名	30名	14名	14名	
試験日	2018年1月30日(火)・1月31日(水) ※3 試験日自由選択制								
合格発表日	2018年2月11日(日)								
試験会場(受験地)	札幌・旭川・帯広・北見・函館・青森・秋田・仙台・東京・名古屋・大阪・福岡								
一般後期入試(B ※歯学部のみ)	5名	一般後期4名 一般後期B3名	5名	5名	4名	4名	2名	3名	
試験日	2018年2月28日(水)	2018年2月28日(水) 一般後期 2018年3月18日(日) 一般後期B	2018年2月27日(火)						
合格発表日	2018年3月8日(木)	2018年3月8日(木) 一般後期 2018年3月21日(水)	2018年3月8日(木)						
試験会場(受験地)	札幌・東京・大阪								
センター前期A入試	15名	6名	8名	6名	8名	7名	4名	8名	
試験日	本学独自の個別試験は実施しない								
合格発表日	2018年2月11日(日)								
センター前期B入試	10名	4名	6名	4名	6名	6名	3名	6名	
試験日	本学独自の個別試験は実施しない								
合格発表日	2018年2月11日(日)								
センター後期入試	3名	2名	3名	3名	3名	3名	2名	2名	
試験日	本学独自の個別試験は実施しない								
合格発表日	2018年3月8日(木)								

※1 歯学部・臨床福祉学科はⅡ期、Ⅲ期の出願があります。 ※2 指定校特別推薦は指定校制です。募集要項等は、直接指定校のみに配布しますので、詳細は各高等学校へお問い合わせください。

※3 一般前期入試の試験日は2日間設定しており、出願時に希望する試験日を登録できます。また、両日受験することも可能です。

センター利用入試(前期A)の指定教科・科目

学部・学科	教科	科目
薬学部 (薬学科)	外国語	「英語」
	数学	「数学I-A」、「数学II-B」から1科目選択
	理科	「化学基礎」、「生物基礎」、「物理基礎」から2科目選択、または「化学」、「生物」、「物理」から1科目選択
看護福祉学部 (看護学科/臨床福祉学科)	外国語	「英語」
	数学・国語	「数学I」、「数学I-A」、「数学II」、「数学II-B」、「国語(近代以降の文章)」から1科目選択
心理科学部 (臨床心理学科)	理科・地理	「化学基礎」、「生物基礎」、「物理基礎」から2科目選択、または「化学」、「生物」、「物理」、「世界史A」、「世界史B」、「日本史A」、「日本史B」、「地理A」、「地理B」、「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理」、「政治・経済・倫理、政治・経済」から1科目選択
	歴史・公民	「世界史A」、「世界史B」、「日本史A」、「日本史B」、「地理A」、「地理B」、「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理」、「政治・経済・倫理、政治・経済」から1科目選択

【備考】 ●「英語」については、筆記試験のみを対象とし、リスニングテストは含まれません。
●薬学部の「数学」「理科」については、センター試験の得点を2倍にして計算します。
●各教科・科目で2科目以上受験した場合は、最も高得点の科目を合否判定に使用します。

センター利用入試(前期B・後期)の指定教科・科目

学部・学科	教科	科目
薬学部 (薬学科)	外国語・数学	「英語」、「数学I-A」、「数学II-B」から1科目選択
	理科	「化学基礎」、「生物基礎」、「物理基礎」から2科目選択、または「化学」、「生物」、「物理」から1科目選択
看護福祉学部 (看護学科/臨床福祉学科)	外国語・数学・国語	「英語」、「数学I」、「数学I-A」、「数学II」、「数学II-B」、「国語(近代以降の文章)」から1科目選択
	理科・地理 歴史・公民	「化学基礎」、「生物基礎」、「物理基礎」から2科目選択、または「化学」、「生物」、「物理」、「世界史A」、「世界史B」、「日本史A」、「日本史B」、「地理A」、「地理B」、「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理、政治・経済」から1科目選択

【備考】 ●「英語」については、筆記試験のみを対象とし、リスニングテストは含まれません。
●「英語」以外の科目は、センター試験の得点を2倍にして計算します。
●各教科・科目で2科目以上受験した場合は、最も高得点の科目を合否判定に使用します。

2018年度

歯科衛生士 試験概要

AO方式入試エントリー受付中。各入試の試験会場は道内各地。

本年度も歯科衛生士専門学校では、AO方式入試においてエントリーを受け付けます。推薦入試を10月・11月と2回実施し、推薦入試Ⅱ期は本校・帯広・北見・函館の4会場、一般前期Aは札幌・帯広・北見・函館の4会場、一般前期Bは札幌・旭川・帯広・北見・函館の5会場で開催します。また、AO方式入試・推薦入試において早期に書類合格した方は、入学金20万円の半額が減免となります(人数に制限があります)。

■2018年度 北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校入学試験概要

	AO方式入試	推薦入試		一般前期入試(A日程)	一般前期入試(B日程)	一般後期入試
		I 期	II 期			
募集定員	30名	10名		2名	3名	5名
試験日	エントリーシート提出後、面接を実施	2017年10月8日(日)	2017年11月12日(日)	2017年12月3日(日)	2018年1月31日(水)	2018年2月28日(水)
合格発表日	出願受付後10日を別途に通知	2017年10月14日(土)	2017年11月17日(金)	2017年12月6日(水)	2018年2月6日(火)	2018年3月8日(木)
試験会場	本校(当別キャンパス)他	本校(当別キャンパス)	本校(当別キャンパス)・帯広・北見・函館	札幌(札幌サテライトキャンパス)・帯広・北見・函館	札幌・旭川・帯広・北見・函館	札幌

2018年度

編入学 試験概要

2年次・3年次の編入学制度があります。

本学は、一般の入学試験とは別に、専修学校や短期大学を卒業した方(卒業見込み者含む)、または大学在学中(2年以上、62単位以上修得)の方、さらに一度社会に出たけれども専門知識や能力をより高めたいと考えている方を対象に、2年次、3年次編入学試験を実施しています。一般選抜のほかに、社会人特別選抜も実施しています。また、編入学試験は毎年2回行われており、I期で不合格であってもII期で再チャレンジすることができます。

■2018年度 北海道医療大学編入学試験概要

		薬学部 (3年次編入)	歯学部 (2年次編入)	歯学部 (3年次編入)	看護福祉学部 (3年次編入)		心理科学部 (3年次編入)	リハビリテーション科学部 (2年次編入)			
		●薬学科	●歯学科	●歯学科	●看護学科	●臨床福祉学科	●臨床心理学科	●理学療法学科	●作業療法学科	●言語聴覚療法学科	
I 期	募集定員	7名	若干名	若干名	6名	6名	2名	3名	3名	7名	
	試験日	2017年11月12日(日)									
	合格発表日	2017年11月17日(金)									
	試験会場	本校(当別キャンパス)・東京・大阪									
II 期	募集定員	3名	若干名	若干名	3名	3名	若干名	2名	2名	3名	
	試験日	2018年1月31日(水)						2018年1月30日(火)			
	合格発表日	2018年2月11日(日)	2018年2月6日(火)						2018年2月11日(日)		
	試験会場	札幌・東京・大阪									

2018年度

大学院入学 試験概要

各研究科とも、一般選抜、社会人選抜を実施。

本学の大学院には、薬学・歯学・看護福祉学・心理科学・リハビリテーション科学の5研究科があり、すべての研究科において一般選抜と社会人選抜があります。また、歯学研究科では「研究コース」に加え「認定医・専門医養成コース」もあり、研究者だけでなく、認定医・専門医育成の体制も整っています。看護学専攻修士課程では、専門看護師(CNS)、ナースプラクティショナー(NP)の教育課程も設置しています。

■2018年度 北海道医療大学大学院入学試験概要

*薬・歯学研究科につきましては、2017年度10月入学試験を実施しております。

		薬学研究科	歯学研究科	看護福祉学研究科	心理科学研究科	リハビリテーション科学研究科
		●生命薬科学専攻[修士課程] ●薬学専攻[博士課程]	●歯学専攻 *1[研究コース/認定医・専門医養成コース]	●看護学専攻 ●臨床福祉学専攻	●臨床心理学専攻 ●言語聴覚学専攻	●リハビリテーション科学専攻
修士課程 第1回	募集定員	一般選抜: 3名(社会人を含む) 社会人選抜: 3名(一般を含む)	—	一般選抜:(看護学)15名(社会人を含む) (臨床福祉学)5名(社会人を含む) 社会人選抜:(看護学)15名(一般を含む) (臨床福祉学)5名(一般を含む)	一般選抜:(臨床心理学)10名以内(学内選抜含む) (言語聴覚学)3名(社会人を含む) 社会人選抜:(臨床心理学)10名以内(学内選抜含む) (言語聴覚学)3名(社会人を含む)	一般選抜: 5名(社会人を含む) 社会人選抜: 5名(一般を含む)
	試験日	2017年8月25日(金)	—	2017年9月26日(火)	2017年9月21日(木)	2017年10月16日(月)
	合格発表日	2017年8月31日(木)	—	2017年10月3日(火)	2017年9月27日(水)	2017年10月23日(月)
修士課程 第2回	募集定員	一般選抜: 若干名(社会人を含む) 社会人選抜: 若干名(一般を含む)	—	一般選抜:(看護学)若干名(社会人を含む) (臨床福祉学)若干名(社会人を含む) 社会人選抜:(看護学)若干名(一般を含む) (臨床福祉学)若干名(一般を含む)	一般選抜:(臨床心理学)若干名 (言語聴覚学)2名(社会人を含む) 社会人選抜:(臨床心理学)若干名 (言語聴覚学)2名(一般を含む)	一般選抜: 若干名(社会人を含む) 社会人選抜: 若干名(一般を含む)
	試験日	2018年1月25日(木)	—	2018年1月23日(火)	2018年1月17日(水)	2018年1月24日(水)
	合格発表日	2018年2月1日(木)	—	2018年1月30日(火)	2018年1月24日(水)	2018年2月1日(木)
博士課程 第1回	募集定員	一般選抜: 3名(社会人を含む) 社会人選抜: 3名(一般を含む)	一般選抜: 10名(社会人を含む) 社会人選抜: 10名(一般を含む)	一般選抜:(看護学)2名(社会人を含む) (臨床福祉学)2名(社会人を含む) *2社会人とは、修士課程修了後、3年以上の実務経験を有する者	一般選抜:(臨床心理学)2名 (言語聴覚学)2(社会人を含む) 社会人選抜:(言語聴覚学)2名(一般を含む)	一般選抜: 2名*2
	試験日	2017年8月25日(金)	2017年9月19日(火)	2018年2月6日(火)	2018年2月8日(木)	2018年2月14日(水)
	合格発表日	2017年8月31日(木)	2017年9月28日(木)	2018年2月13日(火)	2018年2月16日(金)	2018年2月23日(金)
博士課程 第2回	募集定員	一般選抜: 若干名(社会人を含む) 社会人選抜: 若干名(一般を含む)	一般選抜: 2名(社会人を含む) 社会人選抜: 2名(一般を含む)	—	—	—
	試験日	2018年1月25日(木)	2018年2月15日(木)	—	—	—
	合格発表日	2018年2月1日(木)	2018年2月23日(金)	—	—	—
博士課程 第3回	募集定員	—	一般選抜: 若干名(社会人を含む) 社会人選抜: 若干名(一般を含む)	—	—	—
	試験日	—	2018年3月23日(金)	—	—	—
	合格発表日	—	2018年3月29日(木)	—	—	—

[試験会場] 薬学研究科・歯学研究科・看護福祉学研究科・リハビリテーション科学研究科は当別キャンパス、心理科学研究科は札幌あいの里キャンパスで実施します。

*1 研究コースは一般選抜および社会人選抜、認定医・専門医養成コースは一般選抜のみ実施になります。 *2 リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻修士課程は、一般選抜のみ実施になります。

私の学生時代

歯学部
歯学科

教授 千葉 逸朗



昭和52年に北大の歯学部に入りました。受験の成績は3勝14敗1引分(補欠)。高校2年生の9月に決意してから4年半の歳月がかかりました。受験で衰えた体力を回復するため、高校時代にやっていたバレーボール部に入ろうと思っていたのですが、ボート部の先輩から「お前、いい身体してるな。ジギスカンでも食いに行かないか」と誘われ、何も知らない私は茨戸に連れて行かれ、ボートを漕がされ、ジギスカン



全日本選手権で第2位。手前中央が私。
向こう側は優勝した滋賀銀行艇。

カンをご馳走になりました。若者がオレオレ詐欺に引っ掛かったような感覚で、気がついたらボート部に入っていました。それ以来、毎日茨戸と大学の往復で、奴隷のように艇を漕いでいました。後輩からは「Only power, no brain!」と言われ、それでもやっていました。大学時代に「俺はやった!」と言えるのはボートだけでした。おかげで新人戦で優勝し、4年生の時には歯学部の大会で優勝し、その勢いで全日本選手権に出て、何と2位(写真左)!

これが妙な自信となって、その後の人生に役立っています。若い頃に、そのエネルギーを使って、何か一つのことを打ち込んで、結果を出すというのはよろしいことだと認識しました。でも勉強の方はさっぱりだったので、このままno brainではダメだと思い、卒業してから大学院で頭を使うことを決意しました。学生の頃の病棟実習で口腔癌の患者さんを多く診て、その悲



留学先で。右が私。中央は大学院の頃の恩師。左はボス。

惨さに心を動かされ、北大医学部の癌研に行きました。教室員の方々は英語の論文をスラスラと読み、理解し、略語もバンバン使い、日本にしながら外国にいるような感覚を味わいました。それでも半年もすると自分もその世界に溶け込んでいました。やればできると思えるようになったのはボートのおかげです。

その後、2年間米国国立衛生研究所(NIH)に留学し(写真右)、帰国後は口腔外科で助手として12年間臨床をしていましたが、ひょんなことから平成14年に北海道医療大学に参りました。本学に来て、「これが教育なんだ」と実感しました。学生の諸君、君たちは素晴らしい教育を受けているということを忘れないでください。

私の学生時代

今、本学の教壇に立たれている先生たちは、学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。今回は千葉 逸朗教授と田村 至准教授のお二人に、当時の様子を語っていただきました。

私の学生時代

リハビリテーション科学部
言語聴覚療法学科

准教授 田村 至



丸山真男のような政治学者になりたいという途方もない夢を抱いて、東京の私立大学の法学部政治学科に入りました。学部の定員が千人の大きな大学だったので、大教室で先生が講義し、資料も教科書もなく学生はひたすらノートを取っていました。その頃の大学は、勉強は学生の自主性に任されており、学問は自ら独力で学ぶものという認識が、先生と学生に共通してあったように思います。卒業論文で取り組んだ「国家論」では、政治思想史が経済、歴史、宗教などを統合した手強い学問であることを痛感しました。

学生時代は、いろいろな分野の本を読みました。文学では、夏目漱石を愛読し、

お気に入りには「草枕」でした。長い休みには、ドストエフスキーの長編を読破するのが楽しみでした。感銘を受けたのは、心理学者フランクルの「夜と霧」。強制収容所での体験をつづりながら、人生の意味や価値に深い洞察をめぐらしており、座右の書となりました。

大学では、映画のサークルに所属し、見た映画の解釈を仲間と語り合うのが楽しみでした。池袋の文芸座など多くの名画座があったので、いろいろな時代の映画を見ることができました。なかでも「天井桟敷の人々」は、名優の演技と詩人プレバールの格調高い脚本が際立っており、フランス映画の魅力に眼が開かれました。多感な時期に本と映画を通して、人間の生き方について多くを学び、豊かな精神生活を過ごしたと思います。

卒業して会社員になりましたが、大学に戻りフランス文学、言語障害学を学び現

在の専門(高次脳機能障害学)に至りました。医療の領域は、教育・研究・臨床のすべてにたずさわり、幅広いコミュニケーションの機会を得られることが、素晴らしい長所と思います。

手のひらから宝石がこぼれ落ちるように時が流れましたが、蒔かれた種は、長い時を経て実を結ぶものと思えるようになりました。両親およびお世話になった先生方に感謝の意を表するとともに、私が受けた学恩を多くの若い人々に還元したいと思っています。



卒業式にて

O.B.O.G 訪問

リハビリテーション科学部
理学療法学科・作業療法学科 編

今年3月、理学療法学科、作業療法学科から本学初めての卒業生が巣立ちました。
理学療法士 (PT)、作業療法士 (OT) ともに国家試験合格率100%を達成。全員が専門職として就職しています。
1期生の誇りを胸に医療現場で活躍を始めた卒業生を訪ねました。



亀田リハビリテーション病院(千葉県) 理学療法士
松尾 惇志さん
(リハビリテーション科学部理学療法学科2017年卒業)

患者さんは理学療法士の鏡

松尾さんはこの春、グローバルスタンダードな医療の提供、患者満足度の高さに全国に知られる亀田メディカルセンターに就職しました。「グループ内病院のローテーションで様々な領域の経験を積めることが魅力」と熱意を見せる松尾さんのキャリアは、回復

期リハビリテーション病棟のみの専門病院でスタートしました。同院は生活場面にリハビリを組み込み365日体制で実施、18名いるPTも休日、早番・遅番はシフト制という勤務スタイルです。現在松尾さんは1日20単位前後(1単位=20分)のリハビリを担当しています。「私の歩行補助が患者様の歩行に鏡のように反映されるのを目の当たりにした時など、患者様に学ばせて頂いていることと共に、この仕事の責任の重さを実感します」。

痛みがわかる理学療法士

1年目の心構えを聞いてみました。「目の前にいる患者様に最善をつくり、結果につなげることです。新人の私でも経験10年の先輩でも患者様にとっては同じPTですから」。患者さんの思いをまっすぐ受け止めよう



患者さんの笑顔がたえない同院を見学して、「このスタッフと一緒に仕事がしたい」と思ったのが就職の決め手だったそう。

という強い覚悟のベースには、サッカーに打ち込む高校時代、ACL(膝前十字靭帯)を損傷し膝にメスを入れなければならなかったつらい経験がありました。「サッカーをやる者にとってそれがどれほど大きなダメージかを誰より理解し、絶望しそうな私を励ましてくれたのがPTでした」。また、臨床に加え研究活動にも意欲的で、「いつかACL損傷リスクが高い人をスクリーニングする方法を確立したい」と高い志をもって日々患者さんに向き合っています。



市立札幌病院(札幌市) 作業療法士
清水 彩さん
(リハビリテーション科学部作業療法学科2017年卒業)

魅力溢れる作業療法士の仕事

「総合病院であり、リハビリテーションが必要となった患者さんに最も早い段階で介入できる急性期病院であることに魅力を感じた」という清水さんが就職したのは市立札幌病院リハビリテーション科です。毎日新しい患者さんがたくさんやってくるため、短い時間で

必要な情報を得て判断しなければならない急性期リハビリテーションの現場について行くのは「まだ大変」といいますが、基本をおさなりにせず丁寧な仕事をしようと前向きに取り組んでいます。

「患者さんがどんな人かを知り、その生活の近くで機能回復だけでなく心のケアも含めて介入できるのがOTの仕事の魅力、強みであるとあらためて感じています」と笑顔でやりがいを語る清水さん。どの年代の患者さんからも信頼され必要とされるOTをめざして、リハビリを「つらいものではなく楽しいものにできる工夫」をいつも考えているそうです。

キャリアプランはじっくりと

清水さんにとっては活躍のステージが目の前に広く開けていることもOTの魅力のようです。「まだ駆け出しですから、いまは臨床に集中し先

輩からできる限り多くを吸収することに必死ですが、いずれ社会人大学院生になることも考えています。臨床で興味をそそられる分野に出会えば専門性を高めながら臨床を極めるのもいいですし、将来は教員として作業療法の発展に貢献するという道もあるかもしれません。専門職になったその先に広がる選択肢が、仕事をする上でのモチベーションアップにつながっているようです。やりたいこと、なりたい自分をじっくり考える清水さんの5年後、10年後が楽しみです。



明るく前向きな職場。「質問しやすく、教え上手、一緒に考えてくれる先輩OTに育ててもらっています」と清水さん。

2016年度決算について

2016(平成28)年度決算は、学園監事による監査を受けた後、5月25日開催の理事会において承認されましたので、その概要についてお知らせします。

2016年度決算の概要

はじめに
経済状況の悪化や少子化による18歳人口の減少等により、学校法人の経営は一層厳しさを増しています。そうした状況下においても本学園の社会的使命である教育研究活動を発展させていくため、授業料収入などの有限の財源のほかに補助金や受託研究等外部からの資金導入を積極的に図り効率的・効果的に教育研究活動を展開してきました。今後も努力を重ねてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

【計算書の解説】
資金収支計算書は、当該会計年度における法人全体の教育研究活動等諸活動に対する資金の収支を明らかにするものです。
事業活動収支計算書は、経常的収支(「教育活動収支」及び「教育活動外収支」)及び臨時的収支(「特別収支」)を区分して、それぞれの収支状況を把握できるように作成されています。また、毎期の収支状況を把握できるように現行の基本金組入後の収支差額に加えて、基本金組入前の収支差額も表示されています。
貸借対照表は、学校法人の会計年度末の財政状態をあらわした計算書で、資産、負債、純資産の状況を前年度末の額と対比して示します。財務状況や経営分析に使用する重要なものです。

【資金収支計算書】

収入に関しては、学生生徒等納付金収入が予算比6,652万円増、手数料収入が予算比1,162万円増、寄付金収入が予算比336万円増、補助金収入が予算比2,808万円増、資産売却収入が予算比4,848万円増、付随事業-収益事業収入が予算比1億492万円増、受取利息-配当金収入が予算比2,309万円増、雑収入が予算比876万円増となりました。その結果、収入の計は予算比4億2,242万円の91増、1,727万円です。
また、支出に関しては、人件費支出が予算比3,227万円増、教育研究経費支出が予算比2,650万円増、管理経費支出が予算比9,315万円増となりました。施設関係費支出については、薬学部棟2階保健センター-改修工事及び薬学部棟1階事務センター-改修工事を行いました。支出の計は予算比3億8,442万円の88増、1,515万円となり、翌年度繰越支払金は予算比3,800万円の65減、1,625万円となりました。
【事業活動収支計算書】
事業活動収入は予算比4億384万円の90増、4,646万円、事業活動支出は予算比1億5,096万円の5増

91億5,218万円となり、基本金組入前当年度収支差額は予算比2億5,287万円減の1億752万円のマイナスとなりました。また、基本金組入額は予算比1億6,920万円減の6億2,021万円となり、その結果、当年度収支差額は7億2,594万円のマイナスとなりました。また、翌年度繰越収支差額は、144億5,627万円となりました。

【貸借対照表】

総資産342億1,140万円のうち、固定資産は272億4,290万円、流動資産は69億6,850万円となりました。流動資産のうち現金預金は1,625万円です。
総負債40億1,996万円のうち、固定負債は25億3,404万円、流動負債は14億8,592万円となりました。これらの結果、総資産から総負債を差し引いた正味資産は301億9,144万円となり、前年対比1億572万円減少しました。
また、減価償却累計額は、252億9,594万円であり、基本金の当期組入額は6億2,022万円で組入合計額は446億4,771万円です。

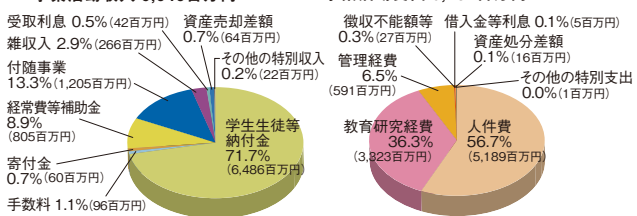
資金収支計算書

科 目	【収入の部】			【支出の部】			
	予算	決算	増減	予算	決算	増減	
学生生徒等納付金収入	6,552,448,000	6,485,925,040	66,522,960	人件費支出	5,172,870,000	5,140,598,184	32,271,816
手数料収入	108,069,000	96,444,276	11,624,724	教育研究経費支出	2,479,846,409	2,353,339,905	126,506,504
寄付金収入	53,000,000	56,362,528	△3,362,528	管理経費支出	480,113,483	489,428,969	△9,315,486
補助金収入	1,046,854,000	808,764,812	△238,089,188	借入金等利息支出	5,000,000	4,997,259	2,741
資産売却収入	15,000,000	63,483,126	△48,483,126	借入金等返済支出	100,000,000	100,000,000	0
付随事業-収益事業収入	1,310,101,000	1,205,179,510	104,921,490	施設関係費支出	201,216,000	178,499,832	22,716,168
受取利息-配当金収入	65,300,000	42,203,991	23,096,009	設備関係費支出	653,469,432	480,932,807	172,536,625
雑収入	274,530,000	265,762,188	8,767,812	資産運用支出	5,000,000	5,000,000	0
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	707,644,719	707,021,141	623,578
前受金収入	761,017,000	681,453,350	79,563,650	予備費	(75,581,304)		4,418,696
その他の収入	531,082,336	544,189,222	△13,106,886	資金支出調整勘定	△610,000,000	△644,666,611	34,666,611
資金収入調整合計	△1,177,695,750	△1,132,492,003	△45,203,747	当年度資金支出合計(B)	9,199,578,739	8,815,151,486	384,427,253
当年度資金収支合計(A)	9,539,705,586	9,117,276,040	422,429,546	翌年度繰越支払金	6,554,259,716	6,516,257,423	38,002,293
前年度繰越支払金	6,214,132,869	6,214,132,869	0	支出の部合計	15,753,838,455	15,331,408,909	422,429,546
収入の部合計	15,753,838,455	15,331,408,909	422,429,546				

■2016年度事業活動収支の構成比率

事業活動収入:9,046百万円

事業活動支出:9,152百万円



貸借対照表

科 目	【資産の部】			【負債・純資産の部】			
	2016年度末	2015年度末	増減	2016年度末	2015年度末	増減	
固定資産	27,242,902,435	27,632,063,149	△389,160,714	固定負債	2,534,039,722	2,585,579,798	△51,540,076
有形固定資産	19,564,670,964	19,976,146,484	△411,475,520	流動負債	1,485,919,151	1,511,338,220	△25,419,069
特定資産	7,100,000,000	7,100,000,000	0	負債の部合計(B)	4,019,958,873	4,096,918,018	△76,959,145
その他の固定資産	578,231,471	555,916,665	22,314,806	第1号基本金	43,916,718,659	43,296,500,496	620,218,163
流動資産	6,968,499,581	6,762,019,999	206,479,582	第3号基本金	100,000,000	100,000,000	0
資産の部合計(A)	34,211,402,016	34,394,083,148	△182,681,132	第4号基本金	631,000,000	631,000,000	0
				翌年度繰越収支差額	△14,456,275,516	△13,730,335,366	△725,940,150
				負債・純資産の部合計	34,211,402,016	34,394,083,148	△182,681,132
				正味資産(A)-(B)	30,191,443,143	30,297,165,130	△105,721,987

財務情報の公開と閲覧

私立学校法が改正され、2005年4月から財務情報の公開が義務化されました。これに伴い、在学生及び卒業生、卒業生、教職員、入学予定者等に対し、2016年度「財産目録、貸借対照表、資金収支計算書、消費収支計算書、事業報告書、監事による監査報告書」を閲覧に供します。また、当別キャンパスは経営企画部財務課、札幌あいの里キャンパスは学務部心理科学課に申し出願いたします。また、大学ホームページにも財務情報を公開しております。
なお、学校会計基準改正により2015年度より消費収支計算書が事業活動収支計算書に変更となり、資金収支計算書の付属表として活動区分資金収支計算書が新たに追加されました。

■主な事業の実績 2016年度事業計画に基づく、主な事業と進捗状況は、以下のとおりです。

1. 教育及び学生支援活動

1.1 地域包括ケアセンター開設に伴う大学院教育の充実・強化
2015(平成27)年12月、地域包括ケアセンターの開設に伴い、大学院看護福祉学研究所看護学専攻において、認知症ケアの知識や技術強化及びがん専門看護師-ナースプラクティショナー(NP)等の養成課程における臨床・研究に活用し、更なる教育・研究の充実に向けました。

2. 専門看護師(CNS)の養成

大学院看護福祉学研究所では、専門分野として特定されている11分野(2014(平成26)年2月現在)のうち、母性看護、老年看護、精神看護、慢性看護、がん看護及び感染看護の6分野の認定を受けており、2016(平成28)年度についても引き続き、その養成に努めました。また、2016(平成28)年7月にがん看護教育課程の更新申請を行い、認定されました。

3. 特定行為研修およびナースプラクティショナー(NP)の養成

大学院看護福祉学研究所では、2010(平成22)年度から、5年以上の実務経験を積んだ看護師を対象に、医師と協働して作成したプロトコル内「診断・治療」が提供できるナースプラクティショナー(NP)の養成を行っており、2016(平成28)年度についても引き続き、その養成に努めました。また、特定行為21区分38行為のうち、本研究所では13区分23行為について、指定研修機関の指定を受け、2015(平成27)年より研修を開始し、2010(平成22)~2012(平成24)年度の試行事業の修了も含めて計17名の特定行為研修修了者を輩出しています。2016(平成28)年度についても引き続き、その養成に努めました。

4. 授業料及び経済的支援の充実

将来、高度専門職業人もしくは教育・研究者として広く活躍する人材を育成するため、特に学業成績および人材に優れた大学院生奨励制度並びに博士課程入学者に対し、その経済的支援として「大学院奨励生」制度を実施しました。

5. リハビリテーション科学部(理学療法学科・作業療法学科)の完成
2013(平成25)年4月に開設したリハビリテーション科学部(理学療法学科・作業療法学科)が完成年度を迎え、5学部8学科を備えた医療系総合大学としての体制を整えました。

6. 理学科学部の当別キャンパスへの移転

大学全体の活性化に向けて、教育・研究・臨床を包括した大学の機能と役割を充実するため、2015(平成27)年4月に開始した理学科学部の当別キャンパスへの移転事業は2年目を迎え、年度計画に基づき事業を推進しました。

7. リハビリテーション科学部改組(言語聴覚療法学科)

2015(平成27)年4月に改組転換したリハビリテーション科学部言語聴覚療法学科は2年目を迎え、年度計画に基づき事業を推進しました。

8. 札幌医科大学との連携推進

連携協定に基づき、札幌医科大学が実施している地域医療実習に本学学生

が参加するなど、同大学との連携を推進しました。

*地域医療実習:札幌医科大学では地域密着型チーム医療実習として、全学部学科の学生が参加して実施しており、実習地域として離島を含む国内各地域に及んでいます。

9. 地域包括ケアセンター開設に伴う多職種連携教育及び実習教育の充実・強化

2015(平成27)年12月、地域包括ケアセンター開設に伴い、2016(平成28)年4月より、看護福祉学部看護学専攻3~4年生[在宅看護学実習]の実習先として役割をスタートさせました。今後も引き続き、地域医療-在宅ケア及び多職種連携による実習教育の充実・強化を図る予定です。

10. 国家試験対策の充実・支援

教育力向上の一環として、国家試験合格者の向上を図るため、模擬試験や予備校の補充講義の充実、国家試験対策合同の実施及び国家試験対策用のシステム構築を行うなど、各学部・学科独自の取組みを行い、国家試験対策を充実させました。

11. 教育支援体制の強化

全学部において入学前教育を実施しました。また、全学部にて教育支援室または学習支援センターを設置し、個別学習相談・指導、生活支援、リメディアル教育、補習授業の開催等を展開し、学習支援の充実にも努めました。

12. 就職・キャリア支援

①学内合同就職相談会の開催
2016年10月に臨床福祉学科、臨床心理学科、言語聴覚療法学科、理学療法学科、作業療法学科を対象に、北海道内の病院、介護老人保健施設、社会福祉施設、行政機関など、183団体の参加を得て開催しました。

②企業セミナー(学内合同就職相談会)

2016年4月に薬学部を対象に道内外の病院、薬局、製薬企業、行政機関等など、173団体の参加を得て開催しました。

13. 実習事業及び経済的支援の充実

①「薬学教育」による養成課程・制度の実施
本学薬学部を卒業後、本学大学院薬学研究科博士課程に進学し、研究科修了後教員として本学薬学部の教育・研究を支えることを志す学生に、学業成績ともに優れた薬学部入学者に対し、国立大学入学者との差額相当分を減免する「薬学教育」による養成課程・制度を実施しました。

②「薬学部附属臨床実習」の実施

将来、臨床医学・薬学医療の分野をリードするよう高い志を持ち、人物・学業成績ともに優れた薬学部入学者に対し、その経済的支援として、在学中の6年間の学納金を国立大学水準以下とする「薬学部特待奨励生」制度を実施しました。

③「福祉・介護」による養成課程・制度の実施

福祉・介護が社会問題となっている福祉・介護専門職の人材育成を図るため、人物・学業成績ともに優れた臨床福祉学入学者に対し学納金を4年間で

390万円減免する「福祉・介護人材育成奨励金」を実施しました。

14. 薬学教育評価

薬学教育評価について、2016(平成28)年5月、一般社団法人薬学教育評価機構に申請を行い、2017(平成29)年3月に薬学教育評価機構が定める「薬学教育評価 評価基準」の適合認定を受けました。

15. リハビリテーション科学部教育評価

リハビリテーション科学部教育評価について、2016(平成28)年6月、一般社団法人リハビリテーション教育評価機構に申請を行い、理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚療法学科(心理学部)の3学科が「リハビリテーション」に必要となる施設基準およびカリキュラムを提供できる養成施設として3月に認定を受けました。

16. 日本作業療法士協会および世界作業療法士連盟(WFOT)の認定校

2016(平成28)年11月に一般社団法人日本作業療法士協会による実地調査が行われ、2017(平成29)年3月に教育基準を満たしていることが認められ、日本作業療法士協会および世界作業療法士連盟(WFOT)の認定校となりました。

【臨床衛生士専門課程】

1. 実習事業及び経済的支援

①薬学部附属臨床実習専門課程学生の入学金減免の実施
AO、推薦入学者に対する入学金減免制度(半額免除)を実施しました。

【全学共通】

1. 実習事業及び経済的支援

①「夢つなぎ入試」の実施
経済的理由により進学が困難な状況にある受験生を対象とした「夢つなぎ入試」を実施しました。

② 入学奨励金支給制度の実施

本学卒業生の子や兄弟姉妹2人以上の入学者を対象とする「入学者奨励金」制度(入学金相当額)に加え、本学を卒業又は退学の際、改めて本学他学科に入学した場合、入学金相当額の奨励金を支給する制度を実施しました。

③ 修学資金貸与制度の実施

成績優秀、心身健全で、経済的理由により奨学金の貸与が必要と認められた学生を対象とした「一般奨励生」、父母等学費支弁者が災害、事故等により学費の交付が難しく困難となった学生で、成績優秀、心身健全である学生に経済的支援に努めました。

【研究活動】

1. がん予防研究所の設置

がんの予防に貢献する研究・実践を推進し、がんの研究者のみならず、広く一般市民にも研究成果を還元し、国民の健康増進に寄与することを目的とした研究所を2016(平成28)年に設置しました。

■主な事業の実績(つづき)

2. 文部科学省「大学改革推進事業(がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン)」採択事業の推進
①2012(平成24)年度に札幌医科大学(代表校)、北海道大学及び旭川医科大学で申請し採択された「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」について年次計画に基づき推進しました。
②2016(平成28)年度が補助金交付の最終年度となりました。
3. 文部科学省「大学間連携共同教育推進事業(分野連携)」採択事業の推進
①2012(平成24)年度に昭和大学(代表校)及び岩手医科大学で申請し採択された「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」について年次計画に基づき推進しました。
②2016(平成28)年度が補助金交付の最終年度となりました。
4. 外部資金の導入
科学研究費など競争的研究資金へより積極的申請を行うとともに、寄付金や受託研究費など外部資金の導入を行っています。なお、2017(平成29)年度科学研究費への申請を11月に行いました。
5. 重点配分研究費
研究費基礎配分額の30%削減を原資に、重点配分研究費として1,000万円を措置し、競争原理の導入を図り配分しました。(重点配分研究費受給者204件)
6. 教育力向上・改善プログラムの公募
本学で行われた教育の質的向上または改善する取組みを支援することにより、教育の改善・改革を進めることを目的に、学長裁量予算を措置し予算配分しました。(決定7件)
7. 長岡技術科学大学との研究交流の推進
2014(平成26)年12月に、国立大学法人長岡技術科学大学と研究交流に関する協定を締結しました。研究交流は、長岡技術科学大学が採択した文部科学省地域産学官連携技術振興事業費補助金「大学発新産業創出拠点プロジェクト(通称「START事業」)」について、医療系総合大学としての本学の特色を生かし、当該プロジェクトを構成する研究の一環に参加しています。
- 診療活動
2016(平成28)年度は患者数289名減、医療収入34,558千円減と、前年度実績を患者数、医療収入はともに下回りました。歯科クリニックは患者数1,685名減、医療収入は5,022千円減といずれも前年度実績を下回りました。また、大病院の病床(24床)稼働率は35.2%(2015年度:38.7%)となりました。
2015(平成27)12月に開設した地域包括ケアセンターは、訪問看護収入が対予算比8,668千円減の10,817千円、居宅介護収入が対予算比623千円増の4,000千円、計14,817千円という収入実績となりました。
- 地域貢献・連携
1. 地域交流
2015(平成27)年12月に開設した地域包括ケアセンターにおいて、地域住民の交流の場(作)年度に地域交流サロンの開放、地域住民のための健康づくり支援事業として健康相談の実施及び認知症患者及び家族の支援事業として、認知症サポーター養成、啓発講習会、認知症カフェ等の事業を実施しました。
2. 当別町・滝川市との包括連携協定の推進
2013(平成25)年に締結した当別町及び滝川市との包括連携協定に基づき、本学が有する医療的、教育研究機能を活用し、保健・医療・福祉をはじめとする幅広い分野において、連携連携協議会及び各部署を立ち上げ当該事業について推進しました。
3. 北海道「福祉・介護人材確保総合対策事業(福祉のしごと魅力アップ事業)」採択事業の推進
中高生、高齢者や主婦層等の一般の方を対象に、年齢等に合わせた進路・就職相談や福祉・介護の仕事の大切さや魅力などを伝えるための福祉・介護体験やセミナー等を実施し、将来にわたって福祉・介護人材の安定的な参入促進を

4. 高大連携
社会貢献の一環と位置付け、高大連携事業として、高校からの要請に応じ本学教員を派遣しての模擬講義および本学にて受け入れる体験学習やインターンシップを実施しました。
- 生涯学習
1. 薬剤師支援センターにおける薬剤師研修の実施
医療現場において、薬剤師が期待される職務を果たすためには、生涯にわたって継続した自己学習・研修が求められています。これら生涯学習を自己責任のもとで行い、常にスキルアップを図る薬剤師を対象として認定薬剤師資格制度化されています。2011(平成23)年度に本学認定薬剤師事業(本学薬剤師支援センター)が薬剤師認定制度認証機関として認定された6年となりました。当該支援センターにおいて、引き続き、認定薬剤師研修制度に関する事業を中心として、医療現場との共同研究の推進及び連携事業を実施しています。
2. 認定看護師(CN)の養成
認定看護師は、「日本看護協会が実施する認定看護師認定審査に合格し、ある特定の認定看護分野において熟練した看護技術と知識を有することが認められた者」と定義づけられています。本学では、認定看護師研修センターにおいて、現在、皮膚・排泄ケア、感染管理、認知症ケア分野の3分野を開設し、その養成に努めています。
3. 公開講座
設定テーマに沿った公開講座の内容の充実等、一般向、卒業生・職能人向ともに本学の特色を生かした講座を継続的に実施しました。
4. 市民医療セミナー
2016(平成28)年4月に北洋銀行と締結した包括連携協定に基づき、市民の健康増進並びに地域医療への貢献に資することを目的として「市民医療セミナー」を開催しました。
- 国際交流
1. 大学・学部間交流
本学では、現在、大学間5大学(アルバータ大学・台北医学大学・中南大学・モナシユ大学・樺東国立総合医科大学)、学部間8大学(同済大学・ニューヨーク州立大学・ブキャローク・インドネシア大学・スラズブル大学・中山大学・マビンドン大学・エテプ大学・プティンジョコピブ大学)、1医療機関(ユング・シテリン病院)と連携協定を締結し、教育及び学術における国際交流を推進しています。
2016(平成28)年度については、薬学部、看護福祉学部、歯学部、歯学部衛生士専門学校において7~8月の間に中山大學(歯学部4名)、スラズブル大学(歯学部1名)、エテプ大学(歯学部3名)、樺東国立総合医科大学(歯学部1名)、台北医学大学(薬学部3名、歯学部2名、看護福祉学部3名、歯学部衛生士専門学校3名)の計20名を受け入れ、授業をはじめ履修学習を実施しました。また2017(平成29)年2月~3月に薬学部(3名)、歯学部(26名)、看護福祉学部(3名)の学生を台北医学大学等の海外提携大学や医療機関へ派遣しました。
2. 語学研修
2016(平成28)年8月にアルバータ大学にて語学研修を実施しました。(参加者数8名)
3. ロシアとの交流推進
ロシア関係では、2016(平成28)年5月26日に前年度からの継続事業、「リハビリセンター」をサハリン州で2回行い、計4回「リハビリセミナー」を開催しました。また、7月にはサハリン州立歯科病院から4名の歯科医師が本学を訪れ、歯学部・歯科クリニックでの臨床研修を行いました。
2016(平成28)年4月に本学歯学部と樺東国立総合医科大学歯学部の間で学部間交流協定を締結し、さらに、9月に大学間交流協定を締結するに、浅香学長が樺東国立総合医科大学を訪れ、今後交流協定について協議を行いました。
4. 北海道個性化医療健康科学シンポジウムの開催
2016(平成28)年8月23日にサテライトキャンパスにおいて個性化医療科学シンポ

- ジウムを開催し、歯学部教員、海外提携機関研究者、短期留学生を合わせて110名が参加し、臨床・歯学についての発表とディスカッションを行いました。
- 広報活動
募集広報として新聞や進学雑誌などの広告掲載、またターゲット地域を絞って交通広告を出しています。ホームページの機能面の拡充、メールマガジン発行など電子媒体の活用、また、オープンキャンパスは年5回(レギュラー4回、キャンパス管理1回)実施しました。
- 経営管理
1. 社会医療法人社団カレスサポロとの連携
2016(平成28)年4月、カレスサポロと「社会医療法人社団カレスサポロ」と「地域医療連携推進法人」設立に向けた基本合意書を締結しました。2017(平成29)年3月、「一般社団法人 北海道メディカルホールディングス」を設立し、「地域医療連携推進法人」期間に向け、北海道への申請手続きを行いました。
2. 予算の効率化・削減
各部署に配付された予算の執行にあたって、事業計画に優先順位を付し、効率的な執行・削減に努めました。
3. 自己点検評価
大学評価について、2017(平成29)3月、大学基準協会への申請を行いました。なお、今後は9月下旬から10月下旬の2日間に大学基準協会による実地視察が行われる予定です。
- 施設・設備
1. リハビリテーション科学部設置に伴う教育研究用備品の整備(29,945千円)
リハビリテーション科学部設置に伴う教育研究用機器備品を年次計画により整備しました。
2. 心理科学部の当別キャンパスへ移転に伴う実習用機器備品の整備(91,229千円)
心理科学部の当別キャンパスへの移転に伴い、必要に応じて実習用機器備品を年次計画により更新し、教育環境の整備を図りました。
3. 薬学部の実習環境整備及び実習室(2-3階)機器更新(20,600千円)
薬学部の実践的な実習への転換・促進を目的としたフジカラーセメントを中心とした実習環境の整備及び実習室(2-3階)機器等の更新し、教育環境の整備を図りました。
4. 歯学部臨床基礎実習室マルチメディア教育システムの更新(58,000千円)
歯学部臨床基礎実習室マルチメディア教育システムを更新し、教育環境の整備を図りました。
5. 大病院2階の一部を歯学部学生技工室へ改修工事の実施(14,009千円)
大病院2階の一部を歯学部学生技工室へ改修し、歯学部実習教育における教育環境の整備を図りました。
6. 歯科クリニック2階画像診断機器更新(6,210千円)
歯科クリニックの画像診断システム使用のプログラム診断および精度の高いデジタル画像診断に更新を行うとともに歯学部実習教育における教育環境の整備を図りました。
7. 大学駅周辺の土地の整備(9,830千円)
2015(平成27)年度に購入した大学駅前土地を整備し、構内環境の充実を図りました。
8. 保健センターの整備(5,292千円)
1996(平成8)年度に設置した「保健管理センター」を2016(平成28)年11月に「保健センター」として再整備し、学生及び教職員の健康及びメンタルヘルスの向上のため、構内環境の充実を図りました。
- 新中長期計画の検討
2009(平成21)年度に計画された「2020年行動計画」は9年目を迎え最終に差し掛かり、創立50周年をめぐり将来を展望した本学の中長期行動計画を見直すこととし、計画の柱を「教育」に「新中長期計画」を検討していく予定です。

学校法人 東日本学園

2017年度予算について

2017(平成29)年度当初予算は、3月23日開催の評議員会・理事会、予算の補正は、5月25日開催の評議員会・理事会で承認されましたので、その概要についてお知らせします。

2017年度予算の概要

- 概要
私立大学を取り巻く社会的環境はこれまで以上に厳しさを増し、現在、約4割の私立大学が赤字割れを起こしています。2018(平成30)年度が減少していく[2018年問題]を前に控え、学生の安定確保が重要課題となっております。
2017(平成29)年度は、「魅力ある大学づくり」をスローガンに2009(平成21)年にスタートさせた本学園の中長期計画「2020年行動計画」が最終に差し掛かるため、今後は創立50周年を迎える2024(平成36)年を見据えた新たな中長期計画の策定に取り組んでいきます。
また、経営面においては、収支定員を基礎とする学生生徒等納付金収入に大きく依存する傾向は変わらない中、収入増を見込むことは難しく、限られた資源を下へ、健全な財政計画を立て、最小コストで最大の効果を上げる事業計画を作成するよう努めています。
- 【資金収支予算書】
収入に関しては、前年度予算比3億6,991万円減の91億6,978万円を見込んでいます。科目別には、学生生徒等納付金収入、手数料収入、補助金収入、受取利息・配当金収入、前受金収入等の増収が見込まれる反面、寄付金収入、資産売却収入、付随事業・収益事業収入等の増収が見込まれます。
また、支出に関しては、前年度予算比1億5,570万円増の90億4,387万円が見込まれます。人件費支出は前年度予算比1億3,981万円増、教育研究経費支出は前年度予算比6,595万円の減、管理経費支出は前年度予算比220万円の増となります。施設関係支出は大学病院別改修工事等にかかる支出、また設備関係支出は薬学部実習室及び看護福祉学部講義室等の教育研究用機器備品等の支出を計上しています。翌年度繰越支払資金は66億4,216万円を見込んでいます。
- 【事業活動収支予算書】
事業活動収支予算書は、経常的収支【教育活動収支】と【教育活動外収支】および臨時的収支【特別収支】を区分してそれぞれの収支状況を把握できるように作成されています。
また、毎期の収支状況を把握できるように基本金組入前の収支差額と基本金組入後の収支差額が表示されています。
- ①教育活動収支

資金収支予算書

【総括表】	科目	2017年度予算	2016年度予算	増減
収入の部	学生生徒等納付金収入	6,367,538,000	6,552,448,000	△184,910,000
	手数料収入	104,543,000	108,069,000	△3,526,000
	寄付金収入	58,000,000	53,000,000	5,000,000
	補助金収入	988,050,000	1,046,854,000	△58,804,000
	資産売却収入	4,000,000	15,000,000	25,000,000
	付随事業・収益事業収入	1,396,288,000	1,310,101,000	86,187,000
	受取利息・配当金収入	40,030,000	65,300,000	△25,270,000
	雑収入	323,389,000	274,530,000	48,859,000
	借入金等収入	0	0	0
	前受金収入	685,480,000	761,017,000	△75,537,000
	その他の収入	446,803,253	531,082,336	△84,279,083
	資金収入調整勘定	△1,280,337,350	△1,177,695,750	△102,641,600
	計	9,169,786,903	9,539,705,586	△369,918,683
支出の部	前年度繰越支払資金	6,516,257,423	6,214,132,869	302,124,554
	収入の部合計	15,886,044,326	15,753,838,455	△132,205,871
	人件費支出	5,312,682,000	5,172,870,000	139,812,000
	教育研究経費支出	2,390,798,317	2,456,750,807	△65,952,490
	管理経費支出	475,100,683	472,891,909	2,208,774
	借入金等返済支出	3,000,000	5,000,000	△2,000,000
	借入金等返済支出	100,000,000	100,000,000	0
	施設関係支出	280,076,000	180,480,000	99,596,000
	設備関係支出	317,555,000	633,941,304	△316,386,304
	資産運用支出	0	0	0
	その他の支出	744,666,811	707,644,719	37,021,892
	予備費	30,000,000	80,000,000	△50,000,000
	資金支出調整勘定	△610,000,000	△610,000,000	0
計	9,043,878,611	9,199,578,739	△155,700,128	
翌年度繰越支払資金	6,642,165,715	6,554,259,716	87,905,999	
支出の部合計	15,886,044,326	15,753,838,455	△132,205,871	

事業活動収支予算書

【総括表】	科目	2017年度予算	2016年度予算	増減		
教育活動外収支	学生生徒等納付金	6,367,538,000	6,552,448,000	△184,910,000		
	手数料	104,543,000	108,069,000	△3,526,000		
	寄付金	58,000,000	53,000,000	5,000,000		
	経常費等補助金	975,053,000	981,454,000	△6,401,000		
	付随事業収入	1,396,288,000	1,310,101,000	86,187,000		
	雑収入	323,389,000	274,530,000	48,859,000		
	教育活動外収入計	9,253,699,800	9,279,602,000	△25,902,200		
	支出の部	人件費	5,316,860,800	5,170,792,000	146,068,800	
		教育研究経費	3,357,234,317	3,432,446,807	△75,212,490	
		管理経費	574,914,683	580,371,909	△5,457,226	
		徴収不能経費	4,690,000	24,535,000	△19,845,000	
		教育活動外支出計	9,253,699,800	9,208,145,716	45,554,084	
		教育活動外収支差額	△28,888,800	71,456,284	△100,345,084	
教育活動内収支	受取利息・配当金	40,030,000	65,300,000	△25,270,000		
	その他の教育活動外収入	0	0	0		
	教育活動外収入計	40,030,000	65,300,000	△25,270,000		
	支出の部	借入金等利息	3,000,000	5,000,000	△2,000,000	
		その他の教育活動外支出	0	0	0	
		教育活動外支出計	3,000,000	5,000,000	△2,000,000	
		教育活動外収支差額	37,030,000	60,300,000	△23,270,000	
		経常収支差額	8,141,200	131,756,284	△123,615,084	
	特別収支	資産売却特別収入	40,000,000	15,000,000	25,000,000	
		その他の特別収入	38,000,000	90,400,000	△52,400,000	
		特別収入合計	78,000,000	105,400,000	△27,400,000	
		支出の部	特別支出	10,000,000	10,000,000	0
			その他の特別支出	0	0	0
		特別支出合計	10,000,000	10,000,000	0	
		特別収支差額	68,000,000	95,400,000	△27,400,000	
予備費		30,000,000	80,000,000	△50,000,000		
基本金組入前当年度収支差額		46,141,200	147,156,284	△101,015,084		
基本金組入額合計		△549,952,000	△789,421,000	239,469,000		
当年度収支差額		△503,810,800	△642,264,716	138,453,916		
前年度繰越収支差額		△14,456,275,516	△13,730,335,366	725,940,150		
基本金繰越収入		0	0	0		
翌年度繰越消費収支差額	△14,960,086,316	△14,372,600,082	587,486,234			
【参考】	事業活動収入計	9,342,841,000	9,450,302,000	△107,461,000		
	事業活動支出計	9,296,699,800	9,303,145,716	△6,445,916		

■主な事業計画

- 教育及び学生支援活動
【大学及び】
1. リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻博士(後期)課程の完成
2. 地域包括ケアセンターを活用した大学院教育の実践・強化
3. 認定看護師(CNS)の養成
4. 特定行為研修およびブライクティショナー(NP)の養成
5. 薬学事業及び経済的支援の充実
【学部】
1. 心理科学部の当別キャンパスへの移転
2. リハビリテーション科学部改組(リハビリテーション科学部言語聴覚療学科の設置)
3. 多職種連携教育及び実習教育の充実・強化
4. リメディアル教育の充実・支援
5. 国家試験対策の充実・支援
6. 教育力向上・改善プログラムの実施
7. AD(インシテンション)設置
8. IR(Institutional Research)組織設置
9. 歯学部実習室
10. 薬学事業及び経済的支援の充実
【歯学部附属歯科衛生士専門学校】
1. 薬学事業及び経済的支援の充実
2. 国家試験対策の実践・支援
【研究活動】
1. がん予防研究の推進
2. 文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」の推進(申請予定)
3. 外部資金の導入
4. 重点配分研究費
5. 長岡技術科学大学との研究交流の推進
■診療活動
1. 医療機関の経営健全化
2. 訪問看護・居宅介護事業
3. 社会貢献・連携
1. 地域連携推進センター
2. 地域交流
3. 当別町・滝川市との包括連携協定の推進
4. 北海道「福祉・介護人材確保総合対策事業(福祉のしごと魅力アップ事業)」採択事業の推進
5. 高大連携
6. コミュニティバス事業
7. 本学施設の地域への開放
■生涯学習
1. 薬剤師支援センターにおける認定薬剤師研修の実施
2. 認定看護師(CN)の養成
3. 公開講座
4. 市民医療セミナー
5. 専門職人の生涯学習
■国際交流
1. 国際交流推進センター
2. 大学・学部間交流
3. 語学研修
4. ロシア・サハリン州、沿海州との交流推進
■経営管理
1. 新学部(健康衛生学部臨床検査学科(仮称))設置検討
2. 予算の効率的運用・削減
3. 学園経営計画に基づく借入金の返済
■施設・設備
1. 薬学部実習室(2階・3階)の機器等の更新及び教育環境の整備
2. 看護福祉学部講義室の教育環境の整備
3. 歯学部看護福祉学部研究科看護学専攻「特定行為研修」における教育環境の整備
4. リハビリテーション科学部学生支援センターの教育環境の整備
5. リハビリテーション科学部教員室等の整備による教育・研究環境の整備
6. 各学部の講義室及び実習室の機器更新及び教育環境の整備
7. 総合図書館ラウンジ・コモンズ拡充及び個人用閲覧席の増設による教育環境の整備
8. CALL教室1の更新における教育環境の整備
9. 各学部講義室及び実習室等の空調設備の更新及びエネルギーの効率化・省エネの実施
10. 本学病院別改修工事の実施
■その他
1. 情報管理環境の検討
2. 新中長期計画の検討

2017年

新入生アンケート結果報告

毎年恒例の全学実施の新入生アンケート。新入生が本学のどこに魅力を感じて入学したのかを聞いてみました。

全ての学科において、「医療系総合大学である」点を魅力に挙げた学生が多いという結果になりました。また、「キャンパス環境」という回答も多く、自然に囲まれたキャンパスと充実した施設・設備で学べる環境も本学の強い魅力であると言えます。

注目が集まる「国家試験成績」と「学生生活」。

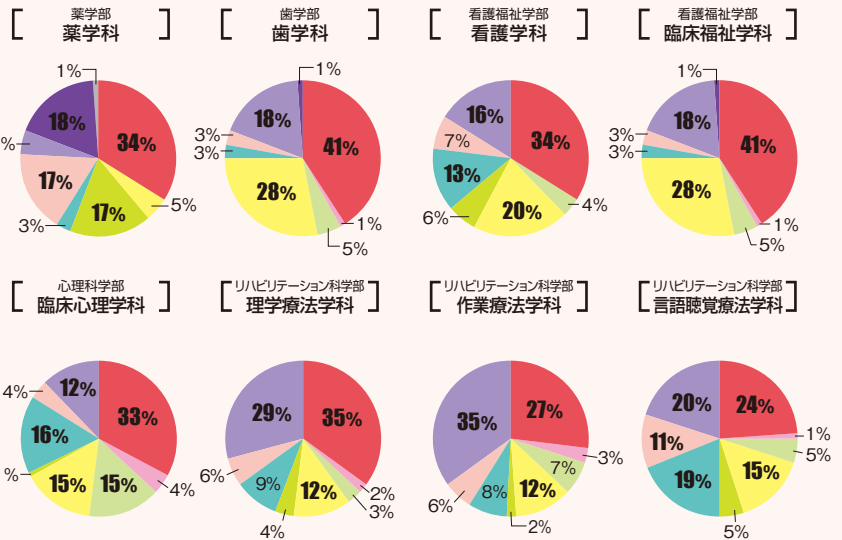
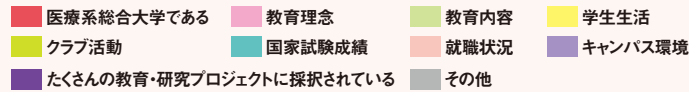
高い合格率を誇る国家試験成績にも、回答が集中。また、「学生生活」を挙げる学生も多く、課外活動などでも他学科との交流が盛んなことに対する大きな期待があらわれています。

歯科衛生士専門学校では、「歯学部附属の専門学校だから」が選んだ理由1位に。

本校を選んだ理由では、「歯学部附属の専門学校だから」が最も多く、「施設・設備が整っている」・「他学部との交流がある」にも回答が集まりました。

北海道医療大学

Q. 本学を志望した際、併願を考えた他大学と比べて本学のどのところに魅力を感じましたか？



歯学部附属歯科衛生士専門学校

Q. 本校のオープンキャンパスに参加しましたか？

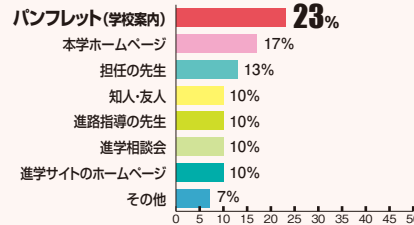
参加した **47%**

Q. 本校を選んだ理由は何ですか？ (複数回答可)

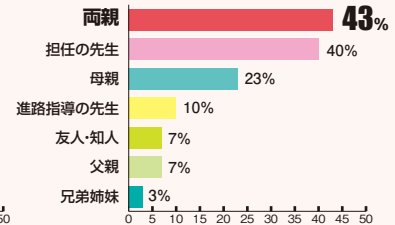
- 1位 歯学部附属の専門学校だから **60%**
- 2位 施設・設備が整っている **50%**
- 3位 他学部との交流がある **27%**

4位 国家試験の合格率が高い(17%)、5位 教育内容や教員スタッフが優れている(13%)、6位 学費が安い(13%)、7位 家族・知人の勧め(10%)、8位 就職に有利である(7%)、9位 先生の勧め(3%)

Q. 本校を何で知りましたか？ (複数回答可)



Q. 進路決定にあたって誰に相談しましたか？ (複数回答可)



ご支援をお考えの皆様へ 記念品の贈呈

本学では、教育・研究の充実・発展に必要な経費及び施設設備費として活用するため、寄付を募集しております。寄付の詳細については、本学HPをご覧ください。なお、10,000円以上をご寄付いただきました個人の方に、金額に応じてWeb芳名録への記載と記念品をお送りいたします。

寄付について

<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/donation/>

※記念品の詳細についても、本学HPをご確認ください。

EDITOR'S NOTE

初夏を迎え、皆様いかがお過ごしでしょうか？ 新入生の皆様は入学して4カ月が過ぎ、大学生活に慣れてきた頃ではないでしょうか？

JR通学は時々混むことがあり、時間も長くちょっと憂鬱かもしれません。でも「立っていればこそ車窓からの景色を楽しむことできる、時間が長い分睡眠もとれる？」と発想転換し不利な状況を楽しむのはいかがでしょうか。

認定看護師研修センターも新入生をお迎えしました。入学生の方は、看護師として10年、20年のキャリアを積まれた後、新たに学習するために入学されました。入学式での皆様のお姿は、生き生きとしていました。その姿を拝見し、私も夢中になって勉強してみたい、という気持ちになりました。

学生の皆様、教育を受けられる環境にある、ということはとても幸せなことではないでしょうか。世界では教育を受けられない人たちも大勢います。日本でも、最近は教育格差などが問題になっています。「歳月人を待たず」。学習できる幸せを十分に感じ、それぞれの目標に向かって頑張ってください。

(K・E記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.167

STAFF ● 遠藤 泰 尚也 仲西 康裕 松田 康裕
遠藤 紀美恵 志渡 晃一 金澤潤一郎 澤田 篤史
本家 寿洋 柳田 早織 大山 静江 杉谷 昌彦
宮川 雄一 小林 侖 園部 望未

発行日 ● 2017年7月

編集・発行 ● 北海道医療大学広報部 入試広報課
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
☎0120-068-222
<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/>

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしています。
E-mail:nyushi@hoku-iryu-u.ac.jp

■北海道医療大学の教育理念
生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広い深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。

